

試料・情報利用研究計画書(概要)

研究番号	2024-1041	利用形態	共同研究		
研究題目	ToMMo地域住民コホートの聴覚機能に関する疫学解析		研究期間	2025年1月 ~ 2026年3月	
主たる研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	寶澤 篤	教授	
分担研究機関	東海大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	責任者氏名・職	和佐野 浩一郎	准教授	
研究目的と意義	<p>・ベースライン・詳細二次調査・詳細三次調査で測定されている聴覚情報と遺伝情報・生活習慣・震災の既往ならびに各種生理機能検査との関連を明らかとし、聴覚障害の危険因子を解明する。</p> <p>・うつ・認知症などのような聴覚障害を放置したことによってリスクが上がると考えられている医学的な問題に加え、抑うつや社会的孤立などの社会的な問題も聴覚障害が影響すると考えられており、それら医学的・社会的問題にどの程度聴覚障害が寄与しているのかを解明する。</p>				
研究計画概要	<p>東北メディカル・メガバンク計画で測定した聴覚検査を使用し、遺伝子・生活習慣・その他検査情報を用いて分析を行う。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害と関連する遺伝情報の探索 ・聴覚障害と関連する生活習慣・検査データの探索 ・聴力検査の結果とその後の生活習慣・検査データ・認知機能低下・抑うつ発生、社会的孤立発生などの関連解明 ・将来の聴覚異常を予測する生活習慣・検査データ・遺伝情報の探索 <p>を行う。</p>				
利用試料・情報	<p>対象:東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート参加者のうち、地域支援センターで聴覚検査を受けた方</p> <p>試料:なし</p> <p>情報:遺伝子(ジャポニカアレイ)・生活習慣・基本情報・調査票情報・血液データ・ベースライン、詳細二次調査、詳細三次調査を地域支援センターで取得した検査データ</p>				
期待される成果	<p>難聴は高齢期の認知機能障害の最大の原因の1つである。若年期から高齢期にかけての聴力障害についての大規模な検討は少なく、また聴力について大規模かつ縦断的にその変化を追っている研究は少ない。さらに遺伝要因についての検討を含めることができる研究は少なく、本研究の推進は我が国の認知症対策に大きく貢献する。</p>				
倫理審査等の経過	2025年1月 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理審査委員会				
倫理面、セキュリティー面の配慮	<p>研究で扱う情報を用いた解析については、個人が特定できないよう個人情報を加工し、記録媒体(もしくは電子的配信)により共同研究機関へ提供する。東北大学東北メディカル・メガバンク機構において個人情報が加工された試料・情報のみを用いるため、提供する試料・情報には、個人が特定できる情報は含まれない。ゲノム情報は共同研究機関には提供されず、東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピューター内のみで解析される。</p>				
その他特記事項	この研究は東北メディカル・メガバンク事業補助金により実施します。				
	*公開日 2025年3月12日				